

# 湛水土中(カルパー)直播栽培特報 第1号

平成31年4月  
富山農林振興センター  
富山市農業協同組合

～JA富山市米品質向上生産運動展開中～

## 播種～苗立ちまでのポイント(コシヒカリを中心に)

- ① 播種深度は5～10mmとし、60本/m<sup>2</sup>(18本/m)程度の適正苗立本数の確保
- ② 土壌条件に応じた基肥基準量の厳守(移植栽培より1割程度減肥)
- ③ 播種後の田干しの実施(苗立ちの安定化)

## ほ場の準備

### (1) 耕起～代かき

- ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生しやすくなります。耕起から砕土・整地の作業は移植より丁寧に行いましょう。
- 代かきは、少なめの水で行い、稲株や雑草をしっかりすき込みましょう。ただし、ねり過ぎないように注意しましょう。
- 代かきから播種までの日数は、砂壤土1～2日、壤土2～3日を目安にしましょう。

## 基 肥

- 基肥は、窒素成分で移植栽培の1割程度の減肥を目安に施用しましょう(表1)。

※大豆跡田では倒伏の危険性が高いことから、できるだけ分施肥体系で栽培しましょう。

※「直播てんこもり」の場合、分施での基肥量は直播コシヒカリより窒素成分で1kg程度増量してください。

表1 施肥基準(直播コシヒカリ)

土 質	LPss直播コシヒカリ (直播用基肥一発)		分施 (側条施肥)
	施用量 (kg/10a)	窒素成分 (kg/10a)	窒素成分 (kg/10a)
砂質浅耕土	34	7.0程度	3.5
砂壤土	31	6.5程度	3.0
壤土	28	6.0程度	2.5

表2 播種作業の目安

播種量		播種深度 (地表面から)
乾粒重量	落下粒数	
2.5～3.0kg/10a	28～33粒/m	5～10mm

## 播 種

- 播種の適期は、4月25日～5月10日頃です。
- 目安を参考に、適正播種に心がけましょう(表2)。
- 播種前の落水は、播種作業が午前中の場合は前日の夕方に、午後の場合は当日の早朝を目安とし、土壌条件や気象条件に応じて行いましょう。

## 播種後の水管理

- ほ場の透水性に応じ、土壌表面に軽く亀裂が入るまで5日程度の田干しを行いましょう。ただし、強い降雨や強い風が吹く場合には入水しましょう。
- 播種後、覆土が不十分で鳥害が懸念される場合は、田干し前に半日程度湛水しましょう。
- 田干し後は、浅水管理を徹底し、初期分けつの確保に努めましょう。



播種後の適度な田干しの状態

## 除草剤の散布

播種後5～7日頃

初期剤:

プレキープ1キロ粒剤

オサキニ1キロ粒剤

播種後13～16日

(イネ1.5葉確認後)

体系是正剤(一発剤)

ガンガン1キロ粒剤

ウィナーLジャンボ

雑草が残ったら

【ノビエのみの場合】

クリンチャー1キロ粒剤

クリンチャーEW

【ノビエと広葉雑草】

レプラス1キロ粒剤

アクシズMX1キロ粒剤

クリンチャーバスME液剤

<使用上の注意>

- ・散布は田面が露出しない状態で行い、少なくとも散布後3～4日間は湛水状態(水深3～5cm)を保ちましょう。
- ・散布後7日間は止水管理し、水田外へ流れ出さないようにしましょう。
- ・除草剤は登録農薬を使用し、安全使用基準をしっかりと守りましょう。

## 鳥害対策

- カモ: ほ場内に糸やテープ等を張り侵入を防ぎ、カモが侵入した場合は、直ちに落水し被害を最小限に抑えてください。
- スズメ: 粃が露出した部分で被害が出やすいので、ほ場の均平に努めましょう。スズメが侵入した場合は、速やかに入水してください。
- カラス: カラスの飛来が懸念されるほ場では、播種後、ほ場内や周辺に水系を張り、飛来防止に努めてください。

春の農作業安全運動展開中(5/31まで)